

# 第2講 電気自動車（EV）のある暮らし②

余暇に仕事に  
日常を支えるEV。  
災害時の活用など  
その可能性は無限大。



北見市内で初めて  
電気自動車「日産リーフ」を購入した  
株式会社時枝工業の会長と社長の  
お二人に購入のきっかけや使い心地  
そして、EVのこれからについて  
お話を伺いました。

Owner's  
Interview  
株式会社 時枝工業  
代表取締役会長 加藤 外吉さん  
代表取締役社長 加藤 雄市さん



様々な心配は、  
次々と安心に。

弊社では、以前からリサイクル運動などの環境活動に社員全員で取り組んでおり、その中でさらなる環境貢献ができないかと思索していました。その時、排出ガスを削減し地球にやさしい電気自動車（EV）の存在を知り「これだ！」と思い



2011年の11月にリーフを購入しました。EVの性能や特徴については、購入前にカタログやディーラーズスタッフから情報を得ていたので、ある程度は理解しているつもりでした。しかし、いざ使用してみると「実際は満充電でどれくらい走行できるのか」「暖房・冷房でどのくらい電力を消費するのか」など様々な疑問を前に、未知の世界に足を踏み入れたような不安があったことも事実です。しかし購入から1ヵ月、2ヵ月と月日を重ねていく中で、消費効率の良い乗り方や充電のタイミングをコントロ

ールできるようになり、購入初期に抱えていた不安は徐々に払拭されました。これは購入してから実感したことなのですが、電費を考えて運転をするので以前よりスピードを出すことがなくなり、安全運転が自然と身につきました。使い方としては通勤と営業用に、平均して1日40kmほど走ります。充電頻度は、暖房の必要がない今時期は4日に1回、暖房を使用する冬でも2日に1回のペースで十分に使用できます。

予想以上の  
コストダウン

これも使ってみて改めて実感したことなのですが、ガソリン車を使っていた時は、冬の暖気運転時、車庫内に排気ガスが充満し困っていました。その点EVは排出ガスゼロ。もちろんマフラーもない。運転前に車内を暖めておいても、排出ガスをゼロなので車庫内がクリーンです。考えれば当たり前のことなのですが、日々新しい驚きや発見をもたらしてくれるのもEVの面白さだと思えます。また、低いランニングコストで



維持が可能ということは聞いていましたが、予想以上の低コストに驚きました。以前はガソリン代に月平均4万円ほどかかっていたのですが、リーフに乗り換えてからは、月数千円の電気代で1ヵ月使うことができています。昨今、問題となっている原油価格の高騰や、限りの少ない夜間電力を中心とした充電すると、需要の少ない夜間電力を中心に充電するEVは地球にも、そして使う人にも優しい乗りものであると改めて実感します。

これからのEVの  
可能性に期待

実はリーフを購入する際に決め手となったことがもう一つあるんです。それは今後ますます広がるであろうEVの可能性。この夏からは、リーフに充電した電気を家庭の電源として活用できるサービスが始まりました。このように技術の進歩や取り巻く環境の整備によって、いままでの自動車に「なかったこと」が実現していく可能性をEVは秘めていると思えます。



弊社は、人々の暮らしに欠かす事の出来ない水道設備の整備を主な業務としておこなっています。水道というライフラインを支える仕事に携わっていますので、大雨などの予想できない災害によってライフラインの機能が障害が出た場合は、発電機を現場へ運び対応します。技術が進歩し、EVから直接電気を供給できるようになれば、発電機を搭載していかなくても、すぐに現場に駆けつけ対応できます。このような技術進歩に加えて、充電設備の充実、走行距離の延伸などが加われば環境にやさしいEVが主役になる時代も近いと思えます。EVの今に寄り添い、今後に期待する。EVとの未来の暮らしを語るトップのお二人からは、環境問題などの社会問題に真剣に取り組み、よりよい地域の暮らしを目指す時枝工業の企業姿勢を垣間見る事ができました。

予 告  
電気自動車の仕組みを親子で学ぼう！  
オホーツクEV大学 校外授業を先配の内容で開講します。  
●日程/2012年8月12日(日)  
●対象/小学4年~6年生のお子様とそのご家族  
●内容/電気自動車の仕組みや性能を実験し、乗って、触れて体験します。  
※詳細は、北海道新聞「うしろ情報」紙面に後日掲載の募集告知をご覧ください。

もはやEVは走るだけでなく暮らしの中心に。

限りあるエネルギー資源、電力の需給不安などの観点からエネルギーを効率的に使う省エネ型のライフスタイル「スマートライフ」が注目を浴びています。

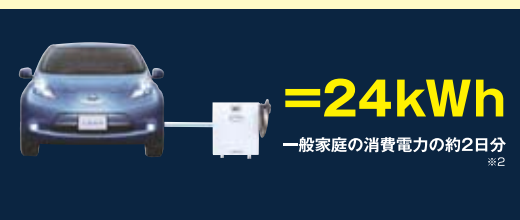
電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド自動車（PHEV）が蓄積している電力を家庭用電源として利用する「Vehicle to Home（V2H）」も必要の少ない夜間電力を活用すれば、地球にも家計にもスマートな生活を実現します。V2Hの研究開発が進む中、日産自動車では、専用のパワーステーションを設置することで、リーフに蓄えた電気を家庭の電源として活用できる世界初の商用V2Hシステム「LEAF to Home」をこの夏より発売しました。V2Hの登場でますます進化するEVライフ。その特徴をご紹介します。

「LEAF to Home」で暮らしが変わる！

①夜たためて昼使えば、地球に家計にエコ  
EVパワーステーションで夜間にリーフを充電し、ためた電力を昼間に車の走行や家庭用電源に活用することで、電力消費のピーク時に電力会社からの受電を最小限に抑えることができ、「ピークシフト」が可能になります。さらに、安価な夜間電力を上手に活用することで経済効果もバツグン。地球にも、家計にも優しいエコライフが実現します。

②もしものとき、バックアップ用電源として暮らしを守ります。

もしもの停電の際に、リーフの大容量バッテリーに充電した電力を、家庭用バックアップ電源として使用することが可能です。リーフが搭載する蓄電池は24kWhと大容量。市販されている住宅向けの据え付け型リチウムイオン蓄電池は5~7kWhの容量のものが多く、この点でリーフは長時間の停電時でも、より長く暮らしを守ります。満充電時なら一般家庭が必要とする電力の2日分を賄うことができます。



③EVの充電もよりスムーズに、今なら補助金も！

標準装備のケーブルで約8時間を要する普通充電(200V15A)が、EVパワーステーションならその半分の約4時間でフル充電が可能になります。さらに、環境にやさしい電気自動車への付加価値を高め、その普及を促進するEVパワーステーションには国の補助金制度が適用され、機器費の半額相当が補助されます。

| 〈参考〉国の補助金を最大限活用した場合<br>例えば、ニチコン製EVパワーステーションの場合 |   |                      |
|--|---|----------------------|
| メーカー希望小売価格<br>(基本工事費+消費税込)                     | 2012年度<br>クリーンエネルギー<br>自動車等導入促進<br>対策費補助金 | 参考価格<br>(基本工事費+消費税込) |
| 56.7万円   | 24万円                                      | 32.7万円               |

※1 EVパワーステーションは、ニチコン株式会社の製品です。  
※2 一般的な家庭用の1日当たりの消費電力を平均10kWhと仮定した場合。  
※3 EVパワーステーション用に200V30Aが必要になります。  
※4 補助金は、購入価格に応じて変動します。本補助金は、必要に応じて申請する必要があります。  
※5 例えは、株式会社Mの基本工事費を6万円(税込)として場合、基本工事費は設置条件により変動します。  
※6 EVパワーステーション購入については、お近くの北見日産自動車まで相談ください。  
補助金の詳細は、次世代自動車振興センターホームページまたはTEL:090-9376-6666までお問い合わせください。